

保健福祉部長

医師偏在について質問します。いわき医療圏への医師偏在指標について、県の認識を尋ねます。

・相双医療圏に住居票をおき、いわきや県外に住んでいる避難者の方々が今なお数万人おられます。この医師偏在指標には避難者が考慮されておらず、実態とだいぶ乖離しています。そのため、避難者数を考慮した地域の実情を反映した医師偏在指標を算出すべきだと思うが、県の考えを尋ねます。

(出てってもらう)

私が代わりに計算しました。具体的に相双医療圏に住居票を持ち、いわき医療圏に住まれている避難者2021年度1万7000人を踏まえ、計算し直すと、実際の値はいわきの医師偏在指標159.2から150.7 全国335中300位
相双医療圏は170以上となり、医師偏在指数が実質県内で1番低いのは圧倒的にいわき医療圏です。その結果どうなっているか

危機管理部長

・県内の2次医療圏の中で、重症者の救急受け入れ困難事案の割合が直近5年間平均で最も高い地域について尋ねます
(ちなみにいつからいわきが1番高いのか教えてください。)

(出てってもらう)

いわきで病気になったら死ぬだけだ、そうおっしゃる方がたくさんいます。いわきでは意識レベルが悪い、血圧も低下している、全身状態が非常に悪い重症患者が、救急車を呼んでもたらい回しされ、自宅で30分以上待たされる、あつてはならない状況が県内の他と比べて圧倒的に多い、それが5年以上続いている。命だけは平等でなければならない。実際の医師偏在指標が1番低い、いわき医療圏に対して、県は国が進める医師偏在対策における、重点医師偏在対策支援区域にいわき医療圏を設定すべきと考えます。

そこで、保健福祉部長、国の医師偏在の是正に向けた総合的な対策パッケージにおける重点医師偏在対策支援区域についてどのように選定するのか、県の考えを尋ねます

(ちなみに複数の医療圏を選定することも可能ですか)

しっかり議論して、是非ともいわき医療圏を選定してください。

また最後一つだけ、これ保健福祉部長に対してではなく執行部に対して要望ですが、去年の一般質問、私が福島県立医科大学からのいわき医療圏への医師派遣対応率を聞きました。総務部長は、常勤と非常勤医師合わせて、令和2年53%令和3年65%令和4年67%と答弁しました。私は個人的にこの数字はおかしいと思い、その後、県立医大に対して、いわき医療圏への常勤非常勤合わせての医師派遣対応率について情報開示請求しました。そこでの実際のいわきへの常勤非常勤合わせての医師派遣対応率の値は令和2年40%、令和3年43%、令和4年46%でした。議場での答弁の値と全く違い、私は非常にショックを受けました。私は質問を通して、県民の皆様が少しでも暮らしが良くなればと信じて質問を作っています。それに対して真摯に向き合って今後は答弁していただきたい。これは心からのお願いです。以上。ありがとうございました。